

志木市議会議員 無所属

天田いづみの議会だより

市議会・まちづくり情報



〒353-0006 志木市館1-1-2-108

Tel/Fax:048-471-1338

E-mail: amada@ff.e-mansion.com

天田いづみのホームページ <http://www.ff.e-mansion.com/~amada/> 第52号 2015年12月

福祉センターの機能を総合福祉センターに移転

9月議会で、福祉センター(中宗岡)の老朽化に伴い、公共施設等マネジメント戦略に基づき、総合福祉センターに機能を移転する。跡地については民設民営による障がい者のグループホーム建設用地として活用する案が市長から報告されました。

少子高齢化に伴い老朽化した公共施設を適正配置する公共施設等マネジメントについては、計画は作っても利害調整が進まない自治体もある中、志木市は先駆けて踏み出したことを評価します。

総合福祉センターについては今回のビジョンにより、子どもからお年寄りまでひとつ屋根の下で生活をともにする施設になります。

子育て支援センター、児童センターをはじめ、教育サポートセンター、10月に開所した児童発達相談センター「すきっぷ」、食堂では障がい者の方々がいきいきと働いています。

これからの少子高齢社会に向け、みんなで寄り添い、一定の限られたものも仲良く分けあい、譲り合っていく福祉社会の実現に向けた一歩です。

サービスを受けるだけでなく、高齢者の皆さまからも子どもたちと共に楽しんでいく知恵を頂けるとよいと思います。

また、総合福祉センターには社会福祉協議会が入っており、志木市成年後見支援センターや障がい者等の相談支援事業所も運営しています。

単なるハコモノ論ではなく、総合福祉センターを拠点として地域福祉計画(市)及び地域福祉活動計画(社協)を、市と社協が一体となって進めていくことが重要です。

香川市長からは「総合福祉センター内では小中学生や子育て世代、障がい者など様々な方々が利用されており、高齢者だけでなく多様な世代間との交流も可能なため、今後、急増する高齢者の生きがい支援や交流を通してお互いが知り合うことで、共生社会という視点からも支え合いのある地域づくりに活かせることが可能となり、日常的に地域福祉の推進が図られるものと考えている。

今後利用者や関係団体の方々からご意見を頂戴しながら、高齢者の健康増進や教養の向上、レクリエーションなどの機会を総合的に提供する施設として、地域福祉を支える拠点となるよう進めていきたい。

福祉センター跡地については、市街化調整区域という特殊性を勘案し、障がい者のグループホーム建設を民設民営で進めていきたい。」との答弁がありました。

障がい者のグループホームは長年の悲願であり、良質な事業者選定をお願いしました。

福祉センターに関する高齢者の調査では、利用目的の最上位が健康体操、介護予防であり、予防・健康づくりを充実して利用者ニーズに応えていくよう求めました。

2015年9月議会 一般質問より

■ 志木市の自治力を高める取り組みについて

地区まちづくり会議の設置要綱では、所掌事項として地区におけるまちづくりの計画の策定に関することが位置付けられています。

天田いづみは第3次志木市総合振興計画(1996～2005年度)の策定に公募の市民として参画した体験から、現在策定中の第5次総合振興計画(2016～2025年度)への関与を期待しています。

実際は、地区まちづくり会議も立ち上がったばかりで深いところまで議論していただくのは難しく、ご意見をいただくのに留まったようです。

けれども、それぞれの地区で、自分たちで地域のために何ができるかということを地道に考え議論して、フォーラムやイベント、クリーン作戦など、ここまで活動されてきたことはありがたいです。

私は志木市の自治力を高めるためには、理想論ではなく、現実的に地域のために何ができるのかを市民と職員がともに考え実践していく実践力がとても大事だと考えます。

行政と市民、市民と地域が点から線へ、線から面へと一体となって、志木市が一つに融和していかれることが志木市の自治力を高めていくと考え、香川市長に伺いました。

香川市長「地区まちづくり会議により、まちづくりに関心のある委員と市職員が一丸となって互いに知恵を出し合い、汗をかくことで、お互いの信頼関係の構築や地域のことは地域で解決するという意識の醸成、効果的に市民の皆さまと関わり、まちづくりを進めていこうとする担当職員の気構えの醸成など、地域の底上げと職員の育成に大いに結びついているものと認識している。

任期2年目の本年度は、地区の特性に応じた地域ならではのイベントや地域住民の皆さまが夢を描けるような事業が7地区で展開される予定である。

任期満了となる来年6月には、活動実践報告書として、各地区からまちづくりへの提言も頂くことになっており、その成果を期待している。」

今後、活動を持続していきたいという機運が高まり、市民の方々が継続的に取り組んでいきたいとなった場合には、既存の市民活動とのバランスにも配慮しつつ支援を検討されることを提言しました。



■ 小中一貫教育の検討について

7月23日の総合教育会議で教育長から「小中一貫教育について検討していく」、今議会では「志木二中校区を指定し、具体的な取り組みを進めていく」とのお話がありました。

志木二中校区ではめざす児童・生徒像を共有し、昨年度は教科毎の部会をつくって研究を進めてきたということです。

志木中校区でも、今年度「明るくあいさつのできる子ども」という児童・生徒像を共有して、9年間を見通した教育計画を検討していきたいということです。

保護者にご意見を伺ってみたところ「志木四小の場合、全学年が2クラスであり、将来1クラスになってしまうと良くないので、今から検討していくことは大事だが、保護者や地域とよく話し合いながら進めていただきたい」とのお話がありました。

11月17日には、全ての小中学校が1学校1教科を担当して、市内一斉授業研究会が開催されます。こうした実践的な研究を現場の先生方が積み上げ、9年間を見通した教育課程が出来ていきます。

教育委員会には学校現場、保護者や地域の皆さまと一体となって、顔の見えるつながりの中で検討していくことを求めました。

尾崎教育長からは「今年度設置した小中一貫教育推進委員会では、現在、各中学校区で取り組まれている小中合同あいさつ運動や中学校教員による小学校への出前授業等の取り組みを発展させ、各中学校区を中心に目指す子ども像や教育課程の統一など、小中一貫教育の実施をめざし検討を始めている。

小中一貫教育の実施にあたっては、定着している現行の義務教育制度を大きく変えるものであることから、市内小中学校教職員の新たな制度に対す

る認識と理解はもとより、PTA等の保護者の皆さま、学校を支える地域の方々の十分な理解のもとに実現されるものと考えている。

そのため、地域で子どもをどう育てるかを関係者や地域の人とも話し合いながら、着実に進めていきたい。

将来、法に基づく(小中一貫教育の実施を目的とする)義務教育学校などを立ち上げる場合には、例えばタウンミーティングなどの場を設けるなど、多くの方々の貴重な意見を頂きながら進めるべき課題と認識している。」との答弁がありました。

2015年6月議会 一般質問より

■ 少子高齢社会を支える行政

～人材育成について～

2025年の志木市の人口推計では、高齢者が25.2%(4人に1人)となり、2020年には前期高齢者と後期高齢者の数が逆転し、高齢化が加速していきます。

また、精神障がい者はここ5年間で2倍近くに増えており、高齢化に伴い生活保護や身体障がい者等も2割程度伸びています。福祉に関わる人手はどうしても必要になってくると思います。また、地域包括ケアをしっかりと進めていく人材を育成し、組織も考えていくことが重要です。

さらに、公共施設等マネジメントについても、包括的な施設管理業務委託などの工夫はすぐにでもできるのではないかと考えます。志木市でも館第一排水ポンプ場・中継ポンプ場・排水機場の包括的な管理委託契約を6年間実施してきましたが、今年度は残念ながら個々の契約となりました。

ここ10年で職員数も600人から400人弱となる中、業務の質が問われていると考えます。先進的な自治体はマネジメント力、企画力のある職員がリーダーシップをとって、先進地の良いところを取り入れ、情報交換しながら業務を開拓しています。

香川市長からは「少子高齢社会に対応するため、いわゆる実働人員の確保という視点からも、2015年度より社会福祉士資格者の採用を計画的に行

い、志木市における今後の地域包括ケアシステムの推進も見据えつつ、専門的かつ長期的な視点を持った福祉行政施策の企画立案者として育成していきたい。

また、人材育成基本方針にもとづき住民対応力向上研修やアサーショントレーニング(自分も相手も大切にしたい自己表現を身につけていく)などの研修を計画的に実施していく。

特に、次代の管理職を育成するにあたっては、個々の職員がどれだけ新しい知識や考え方を学び、自らの能力を高めようとするかなど、職員のモチベーションを引き出すことが大変重要であると考えている。」

また、保健師等女性の専門職が管理職として活躍していけるような人づくりについては、「本市の女性管理職の割合は4月1日で22.4%だが、前年度と比較し3.6%向上している。ワークライフバランスについても分析しながら女性の能力を発揮する努力をしていきたい。

今年度は今後の女性管理職をめざす主査職員を対象に、初めてキャリアアップ研修の実施も予定しており、そうした取り組みを進めながら、お話の地域包括ケアシステムについても十分視野に入れながら取り組んでいきたい。」との答弁がありました。

土木建築については引き続き計画的な採用、育成を。上下水道については市レベルでは専門職が少ない中、県や自治体間の連携により乗り越えていくこと。柳瀬川図書館等、長年司書等の専門職が臨時職員として支えてきた現場については、非常勤職員とすることで課題に対応していくことを求めました。

■ 誰もが安心して生活できるまちづくり

～生活困窮者自立支援事業について～

今年度から、生活困窮者自立支援法に基づき志木市は市役所内に生活相談センターを開設、家計相談も行っています。

学習支援については、生活保護の中学生を対象に昨年度までは埼玉県がアスポート学習支援事業を行っていましたが、生活困窮者自立支援法に学習支援が位置付けられたために打ち切りになっ



てしまいました。学習支援事業は任意事業のため、自治体の判断に委ねられています。

志木市ではアスポート事業に毎年10名程度が参加、昨年度は高校中退者を含め9人全員が県立高校に入学できたということです。

学習支援を受けていた子どもたちが受けられなくなるのがあってはならないと、一刻も早く継続できるように学習支援事業について伺いました。

村上健康福祉部長「学習支援事業については6月下旬から、生活困窮世帯等の中学生・高校生を対象とした学習教室を開設する予定で、委託先の一般社団法人は従来より県のアスポート事業に参加していた事業者である。

中学生の教室は市内の本町地区、高校生については川越駅近くに教室を確保し、それぞれ週1回程度学習支援を進めていく。」

机上の勉強だけではなく、生活全体をサポートしていく活動については「まず、貧困の連鎖を防ぐために、最低限子どもたちには高校を卒業できるよう支援をしていきたい。

また、単に学力の習得のみならず、社会生活に於いてなぜ学習することが大切なのか、学ぶ意義についても考える機会をつくりたい。」とのことでした。

従来から働きかけてきた教育と福祉の連携のもと、志木市が子どもたちを大切に育てていきたいという志に感謝し、見守っていきます。

2015年3月議会 一般質問より

■ 子どもと家族に寄り添う切れ目のない支援 ～児童発達相談センターについて～

障がいがあり手帳を持っている子どもたちは18歳まで、個別支援計画として幼少期から学齢期まで切れ目のない支援を、学校では個別指導計画として1人ひとりに応じたプログラムを引き継いでいきます。

児童発達相談センターができることで、グレーゾーンの気になる子どもたちについても切れ目のない支援が可能となります。

吉岡健康福祉部長「児童発達相談センターは、子どもの発達に関する総合相談窓口となって、子どもとその家族に寄り添いながら社会へスムーズになぐことをめざし、切れ目のない支援を行っていく拠点となる。

まず、相談支援で情報提供や支援を行うとともに、一人ひとりに寄り添った支援プログラムを作成する。

次に発達支援では、支援プログラムに基づいて、小児科医師・臨床心理士・言語聴覚士・作業療法士などが個別またはグループによる療育を行う。

さらに巡回支援では、市内の幼稚園や保育園をまわり、専門的な知識や情報、指導方法についてサポートしていく。」

小児科医師には週1回関わっていただけるということで、ありがたいことです。

■ 高齢者がいきいきと安心して暮らせるまちづくり ～高齢者保健福祉計画及び

第6期介護保険事業計画について～

(1)訪問型・通所型及び地域リハビリ介護予防事業

この事業については、2017年度までに実施する新しい総合事業を見据えた展開なのか。また、圏域ごとに地域包括ケアシステムを充実させていく考えについて伺いました。

吉岡健康福祉部長「いろは元気サロン本町は新たな介護予防拠点として、通いでのリハビリテーション指導、訪問し介護リスクの高い方を把握し指導、町内会での介護予防活動に対する定期巡回や、地域ケア会議、高齢者あんしん相談センター等との自立支援に向けた連携協議など、先進的な介護予防の観点から、地域に根差したリハビリテーションを強化していきたい。

新しい介護予防・日常生活総合事業へのスムーズな移行を見据え、パイロット事業として構築を目指していく。」

高齢者の運動機能向上に効果のある、おもり(重錘バンド)を使った運動事業の導入、住民主体の小地域サロン事業への支援についてもお願いしました。

(2)認知症施策の推進

認知症ケアパス(認知症発症時から状況に応じ

た医療や介護サービスの標準的な対応)は、個に応じたケアパスへの第一歩ととらえています。

また、認知症サポーター養成講座を受けた方等が見守り、寄り添い、声を掛け合うことができる地域づくりに向けた実践的な活動の方向性、医療との連携について伺いました。

吉岡健康福祉部長「認知症ケアパスについては、認知症の方とその家族を支える地域の社会資源を整理し、認知症の状態に応じ、サービス提供の流れを市民にわかりやすく提示するものとされている。市と高齢者あんしん相談センターの協働により、2015年度中に策定していく。

認知症カフェについては2015年度は市内すべての高齢者あんしん相談センターで実施する予定である。

認知症サポーターについては、認知症徘徊者模擬訓練などにも参加いただき、実践的な理解に向けて取り組んでいく。

医療との連携については、朝霞地区医師会との連携による朝霞地区4市多職種連携勉強会の開催や地域医療連絡協議会等の協議を進めており、顔の見える関係づくりによる連携体制の構築を推進していく。」

今後、要支援については市も地域支援事業としてサービスを提供しますが、要支援の中に認知症で注意を要する方がかなりいらっしゃるということです。介護予防は大切ですが、必要な方にはしっかりケアをしていくこと、このところ年に1~2回しか行われていないケアプランチェックを行っていくこと、2次予防事業に位置付けられているうつ予防についても取り組んでいくことを求めました。

TMG宗岡中央病院では3月からもの忘れ(認知症)外来(木曜午後)を、本町6丁目の福島脳神経外科・内科クリニックではもの忘れ相談室(土・日午前・予約制)を開設、地域医療に貢献いただきありがとうございます。



■ 下水道施設の老朽管対策について

水道事業については志木市水道ビジョンを2015年度に策定し、目標水準を設定、当面の課題に対

する実現方策(基本計画)、財政計画に関する積算根拠を明らかにしていくということです。

下水道事業についてはどうするのか伺い、神木上下水道部長からは「現在、管路施設の状況に応じて緊急度の判定や改築修繕の判定を行い、補修工事等を実施しているが、今後は公営企業会計としての経営状況も見極め、施設・設備の点検及び健全度評価や劣化予測に基づく必要経費の予測、個別施設の維持補修・改築計画(ストックマネジメント)を策定するところから始めていきたい。2016年度には策定に着手していきたい。」との答弁がありました。



■ 志木市の教育について

(1)教育に向けたビジョンについて

志木市の教育については発達段階に応じた教育、地域と一体となった教育が特徴であると考えます。これまで、少人数学級(ハタザクラプラン)を発達段階に応じたクラスサイズで小学校3年生まで行ってきました。2015年度からは小学校4年生について全校に少人数指導教員を配置し、少人数指導やチームティーチングなど個に応じた授業を充実していくということです。

地域と一体となった教育については、出来れば志木小学校・いろは遊学館のように、ひとつ屋根の下で地域の人々と共に集い、一緒に生活できるとよいと思います。ハコモノ論ではなく、子どもたちが学校にいる間から地域社会の中で育っていくことが、少子高齢化にあっても活力のある社会に向けて望ましいと考えます。

尾崎教育長からは「学校と地域が一体となって子どもたちの成長を支援できる体制が整っていることは志木市の大きな強みであるとする。私は志木市の一番の財産は、子どもや地域を愛し、この地域で学び活動する市民だと思っている。次代を担う子どもたちがたくましく成長すること、地域を愛し、いきいきと学び活動する市民がひとりでも増えることを願って、新たな総合教育会議の仕組みに積極的に対応することにより市長と情報を共有し、今までの教育活動の積み重ねや教育現場の自主性も大切に

しながら、教育委員会、そして自分ができることを進めていきたい。」との答弁がありました。

(2)教職員の研修について

2015年度から課業日数が増えるということで、研修の充実に資することができると考え、教育長に伺いました。

尾崎教育長からは「若手教員の増加、ベテラン教員の退職、中堅教員の不在という状況により、今まで以上に教員の経験年数に応じた指導力向上

のための研修が必要となってきている。

2014年度は、新たに3年次経験者研修や中堅教員のためのミドルリーダー研修会を実施した。また、12校全てが市の研究委嘱を受け、6校が研究の公开发表を行った。

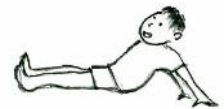
2015年度はさらに教育課程の見直しも活用し、校長会が中心となって、市内の全教員が授業力を高め合える市内一斉の授業研究会を計画している。」との答弁がありました。

● 天田いづみの活動日誌(主なもの)

- 2015年1月2日 本町6丁目・柏町2丁目・幸町3丁目火災現場視察、志木駅前交番にパトロール要請
11日 消防出初式、退職消防団員感謝状贈呈式
13日 志木市社会福祉協議会 谷合会長と懇談
14日 第5回志木市庁舎及び市民会館複合化施設建設基本計画検討委員会傍聴
17日 子ども議会～同じ中学校区でチームを組んで、質問・提案～傍聴
23日 平成26年度志木市教育委員会研究委嘱 道徳研究発表会(宗岡中学校)
25日 志木の遺跡展～本町地区の遺跡編～
27日 平成25・26年度志木市教育委員会研究委嘱 国語科研究発表会(志木第三小学校)
28日 平成24・25・26年度志木市教育委員会研究委嘱 算数科研究発表会(志木第二小学校)
31日 第40回太陽展(志木市立小・中学校 特別支援学級合同作品展)
2月6日 平成25・26年度 文部科学省道徳教育の抜本的改善の充実に係る支援事業、埼玉県・志木市教育委員会委嘱 道徳研究発表会(志木第二中学校)
10日 高齢者保健福祉計画審議会及び介護保険事業計画策定委員会傍聴
12日 介護予防講演会 これからの介護予防 埼玉県高齢介護課地域包括ケア担当 清水順平さん
第6回志木市庁舎及び市民会館複合化施設建設基本計画検討委員会傍聴
13～3月18日 議会定例会
3月1日 スペース・わ5周年記念講演「一緒に考えましょうリアルな老後」NPO法人暮らしネット・えん小島美里さん
5日 高齢者あんしん相談センター館・幸町 石幡所長より認知症施策、医療との連携等について伺う
8日 第6回子どもから高齢者「そろばんに挑戦」富士見市大会(鶴瀬西交流センター)
9日 高齢者あんしん相談センターせせらぎ 飯田所長より認知症施策、医療との連携等について伺う
13日 志木二中卒業式
15日 野火止用水ぶらり散歩第2回～清瀬から玉川上水へ～(NPO法人エコシティ志木)
16日 第7回志木市庁舎及び市民会館複合化施設建設基本計画検討委員会傍聴
18日 議員説明会…市庁舎及び市民会館複合化施設建設基本計画検討委員会による検討結果の報告について
19日 宗岡二中 飯田校長と懇談
ふれあいサロンあざみ
24日 志木二小卒業式
26日 朝霞地区一部事務組合議会
29日 さくらフェスティバル フリーマーケット(志木市コミュニティ協議会)、村山快哉堂まつり
31日 公共施設マネジメント特別セミナー 東洋大学PPP研究センター長 根本祐二さん、町田市市長 石坂丈一さん、東洋大学客員教授 南学さん(日比谷図書文化館にて)
4月4日 天田いづみのティータイム



- 5日 春のいろは親水公園まつり(同実行委員会)
- 8日 志木二中入学式
- 9日 志木二小入学式
老後を快適に暮らす会総会及び懇親会
- 10日 東武東上線95号踏切幸町2丁目側カーブミラー設置について立会い…道路課
- 16日 西原ふれあい第三公園(斜面林)の管理について立会い…都市計画課
- 22日 志木四小視察 川崎校長と懇談
- 23日 第1回総合教育会議傍聴
- 24日 幸町2丁目カーブミラー設置について立会い…道路課
- 25日 わっか祭(同実行委員会、東上線沿線地域協議会)
- 26日 第1回ふれあい館「もくせい」まつり
3. 11の教訓と未来への提言 元福島県川内村議会議員 西山千嘉子さん
- 27日 第1回まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会傍聴
- 30日 志木四小もくせい会定期総会
- 5月9日 環境デー クリーン作戦
- 10日 志木おやこ劇場 子どもまつり
- 14日 上宗岡1丁目火災現場視察
- 15日 ～命のひと声訓練～認知症徘徊模擬訓練第3弾！宗岡銀座商店街(志木市、高齢者あんしん相談センターせせらぎ)
- 17日 志木いろはウォークフェスタ 第1回ノルディックウォーキング・ポールウォーキング全国大会
NPO法人エコシティ志木総会
- 23日 志木三小運動会、志木二中体育祭、宗岡二中体育祭
- 25日 <自治体政策研究会>都市部での「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の活用法 北海道大学
公共政策大学院教授 宮脇淳さん
- 30日 志木二小運動会
- 31日 第7回 スtrings志木定期演奏会
- 6月2日～22日 議会定例会
- 2日 議員説明会…公共施設等マネジメント戦略、市庁舎及び市民会館複合施設建設について
- 3日 公共施設マネジメントフォーラム第1回 成果に結び付く公共施設マネジメント 流山市財産活用課
ファシリティマネジメント推進室長 寺沢弘樹さん他(東洋大学PPP研究センター)
- 6日 プロダクティブ・エイジング・シンポジウム 納得できる旅立ちのために 一般社団法人ライフケアシステム
代表理事 辻彼南雄さんほか
- 7日 新河岸川水系身近な川の一斉水質調査(NPO法人エコシティ志木、志木中科学部)
- 28日 志木市吹奏楽団オール志木ウインド 第17回定期演奏会
- 30日 朝霞地区一部事務組合議会…消防計画、第4次5か年整備計画について一般質問
- 7月1日 志木市デマンド交通出発式
- 2日 柳瀬川・外来植物駆除作戦 志木中学校ボランティアとの協働(NPO法人エコシティ志木)
- 23日 第2回総合教育会議傍聴
- 24日 公共施設マネジメントフォーラム第2回 民間による「公共」施設整備を実現する～紫波町「オガール」にみる民間投資を呼び込む自治体の戦略と役割 岩手県紫波町生活部長佐藤勇悦さん
ほか(東洋大学PPPセンター)
- 25日 市民花火大会(志木市観光協会)
- 31日 第5区議員研修会「地方議会の危機管理」議会制度研究アドバイザー 野村稔さん
- 8月1日 終戦70周年平和祈念事業「疎開した40万冊の図書」上映会及び金高謙二監督のトークショー
- 2日 助け隊助けられ隊説明会(東の森壱番街自主防災会)
- 4日 <自治体政策研究会>自治体が直面する重要課題と「政策力」向上への工具箱 北海道大学
公共政策大学院教授 宮脇淳さん
- 6日 館近隣公園…都市計画課職員と志木ニュータウン町内会長が協力して芝生に水まき



- 20日 第3回志木市総合振興計画審議会及びまち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会傍聴
- 22日 志木ニュータウン森の祭り
- 29日 市民総合防災訓練に関わる議会対応訓練…志木第二小学校避難所を視察
- 30日 第29回“チャリティーいろは市”(いろは商店会)
- 8月31日～9月25日 議会定例会
- 31日 議員説明会…市庁舎及び市民会館建設事業手法等比較検討支援業務委託について、将来ビジョン(第5次総合振興計画将来構想)素案について、公共施設等マネジメント戦略・福祉センターの機能移転と跡地の利用について(案)
- 9月5日 「どうなる共済年金?どう変わる厚生年金?」浦和大学総合福祉学部客員教授 長沼明さん
- 11日 志木小 磯校長より小中一貫教育について伺う
- 13日 ピアノ・デュオ・ウィズ 東日本大震災チャリティコンサート
- 18日 TMG 宗岡中央病院 志木市議会議員向け新病院内覧会
- 19日 志木四小運動会、宗岡二小運動会、宗岡三小運動会、宗岡四小運動会
- 21日 敬老会 午前本町・宗岡地区、午後柏町・幸町・館地区
- 26日 志木小運動会
志彩会日本画展

■ 柳瀬川図書館で期日前投票

従来より、期日前投票にも行かれない若い人たちも、柳瀬川図書館なら行きやすいのではないかとのご意見をいただいていた。投票率の傾向として、60～70歳代が50～60%なのに対し、20～30歳代は20%前後にとどまっています。

8月の県知事選挙から、志木市役所、ふれあいプラザ(マルイのあるビルの8階)だけでなく、柳瀬川図書館で期日前投票ができるようになりました。

■ 志木ニュータウン歩道 年度内に補修

街路樹の影響等による歩道のでこぼこで危険なため、毎年補修を要望してきました。

志木市の高齢化率 23.1%(11月1日現在)に対し、館地区の高齢化率は36.3%と、市内で最も高く、杖やカートを頼りに歩く方も多くなっています。

今年度中に志木ニュータウンの歩道の補修が行われる予定ですが、改めて現地調査を行い、危険箇所の把握をお願いしました。

■ 柳瀬川土手 年度内に整備

「柳瀬川の土手を歩きやすく」とのご意見をいただき、河川管理者として堤防を管理している埼玉県朝霞県土整備事務所をお願いしてきました。

今年度中に、東武東上線から志木大橋を経て新座市との市境までの整備が行われる予定ということです。



命のひと声訓練第3弾！宗岡銀座商店街
(認知症徘徊模擬訓練) 2015. 5. 15



ティータイム

2016年2月6日(土)

午後 2:00～4:00

柳瀬川図書館2階会議室

志木の中で身近に感じていることなどを

気軽にお話しませんか？

**** これまでの活動とその成果は！！ ****
天田いづみのホームページでご覧下さい